

## 令和7年度ウミガラス保護増殖事業実施結果

北海道地方環境事務所

## 1. 繁殖結果

2025（令和7）年度はウミガラスの飛来数・つがい数ともに過去最大値を記録し、近年、過年度に比べて減少していたつがい数も回復し増加傾向となった。繁殖している中央巣棚内において新たな箇所を利用するつがいを確認し、左右の巣棚を頻繁に利用する様子も確認されている。また、今年度は天売島のハシブトガラスの個体数が少なく捕食被害が減少した。

最大飛来数 : 135羽（昨年比+13）  
 つがい数 : 最低37つがい（昨年比+14）  
 巣立ちヒナ数：推定24羽（昨年比+10）  
 巣立ち日 : 7月24日～8月2日の間  
 （昨年7月23日～8月2日）

ロードマップ目標値

（2022（令和4）～2031（令和13）年度）

飛来数：200羽以上

つがい数：75～125つがい以上

巣立ち成功率：75%以上

巣立ち成功率：64.8%（巣立ち成功率＝巣立ちヒナ数/つがい数×100、昨年60.9%）

（※機材トラブルにより録画できていない日時あり。詳細は図6に記載）

（※つがい数：産卵（卵・ヒナを確認）したつがいをカウント）

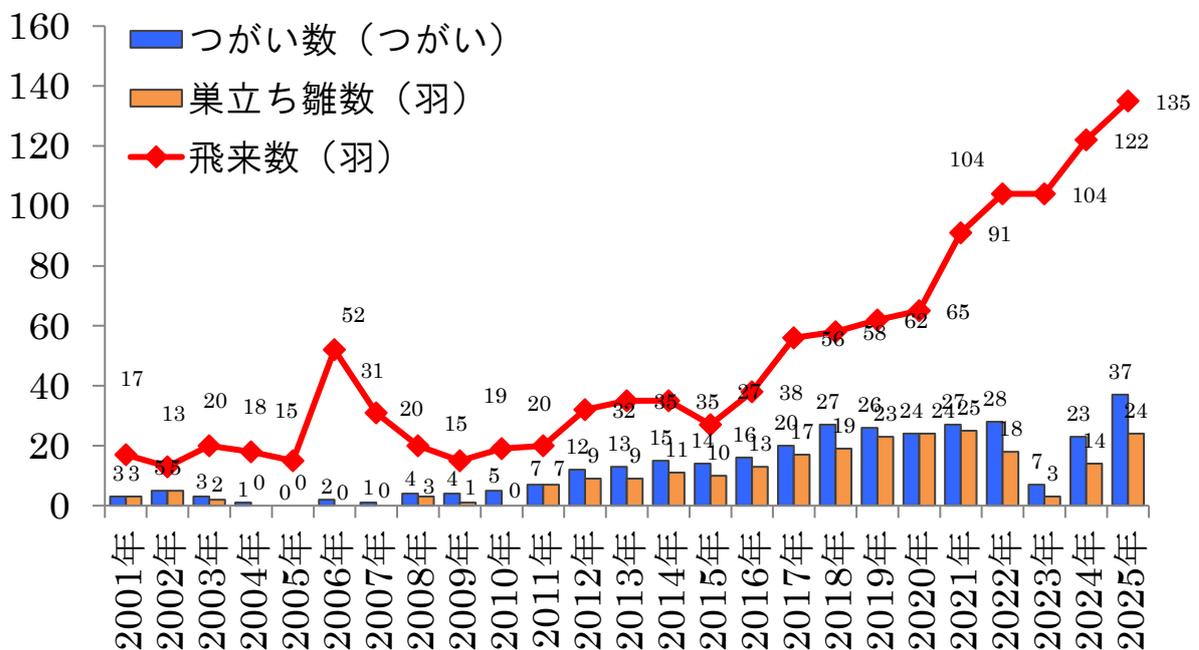


図1 ウミガラスの繁殖結果（2001～2025年）

表1 巣立ち成功率の経年変化（巣立ち成功率＝巣立ちヒナ数/つがい数×100）

	年	巣立ち成功率	平均値（±SD%）
		※赤字：ビデオカメラモニタリング未実施	
捕食者対策前	2008	75.0	41.7%（±52.0%）
	2009	25.0	
	2010	0.0	
捕食者対策後	2011	100	72.3%（±7.2%） ※2011、2020年を除く ※目標値：75.0%
	2012	75.0	
	2013	69.2	
	2014	73.3	
	2015	71.4	
	2016	81.3	
	2017	85.0	
	2018	70.4	
	2019	88.5	
	2020	100	
	2021	92.6	
	2022	64.3	
	2023	42.9	
2024	60.9		
2025	64.8		

表2 ウミガラスの繁殖スケジュール（2014～2025年）

（中央値）	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
産卵期	5/27	5/28	5/16	5/23	6/4	5/30		5/29	6/20	6/10	6/5	6/9
孵化期	6/28	6/30	6/19	6/25	6/28	7/1	解析不可	6/30	7/22	7/12	7/7	7/8
巣立ち期	7/18	7/21	7/11	7/16	7/23	7/22		7/21	8/11	8/1	7/26	7/28

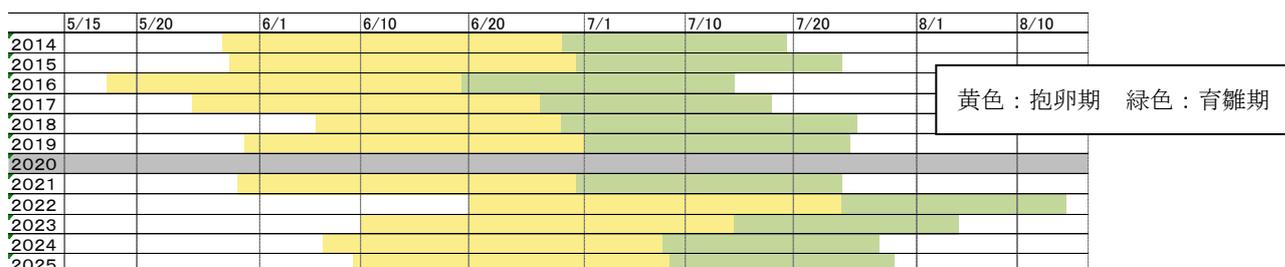


図2 ウミガラスの繁殖スケジュール（2014～2025年）

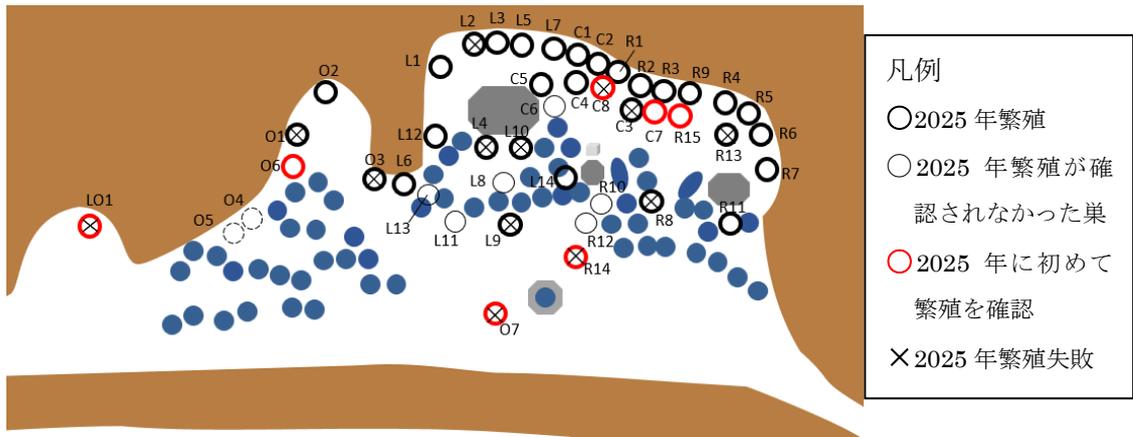


図3 中央巣棚におけるウミガラス営巣位置等（2025年）

## 2. 事業実施状況

### (1) 生息状況等の把握

#### ① 飛来繁殖状況の把握（モニタリングカメラの設置）

ウミガラスの飛来数・つがい数・巣立ちヒナ数の把握のため、巣棚内及び巣棚入口にモニタリングカメラを設置した。2025（令和7）年度は設置当初に配線の接続不良により複数回録画が停止したが復旧後は安定して稼働した。また、設置作業では、巣棚の海側が風雨や雪により浸食され、作業スペースの確保が難しくなっている。

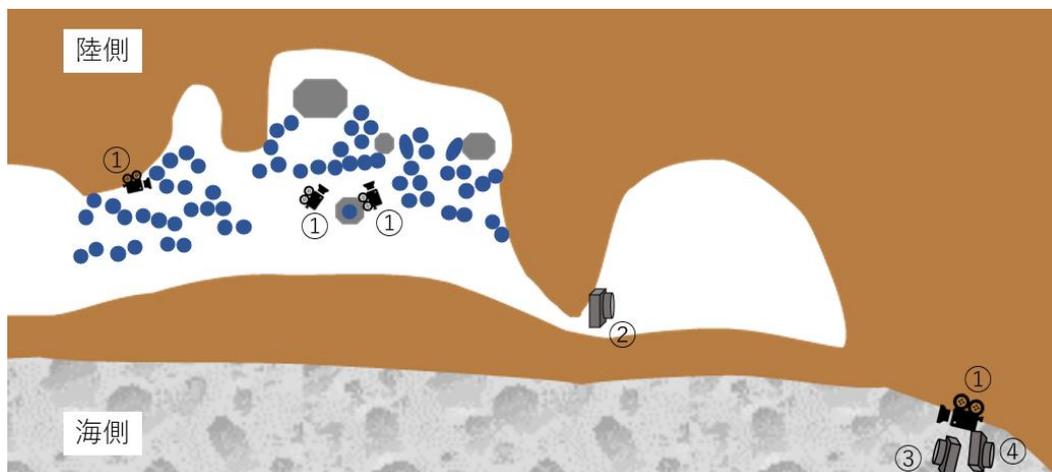


図4 ウミガラス繁殖地周辺のモニタリングカメラ設置位置（2025年）

—各カメラの仕様と目的—

- ① ビデオカメラ：飛来数・つがい数・巣立ちヒナ数等をモニタリング
- ② インターバルカメラ：ウミガラスの右側巣棚の使用状況をモニタリング
- ③ センサーカメラ：ハシブトガラスの巣棚への飛来頻度をモニタリング
- ④ センサーカメラ：巣棚へのドブネズミへの侵入状況をモニタリング

	3月	4月	5月	6月	7月	8月
音声装置		設置 (2日)				撤去 (21日)
ビデオカメラ		設置 (20日) ※設置後1か月間は接続不良により15日間程度停止				撤去 (21日)
インターバルカメラ・センサーカメラ		設置 (20日)				撤去 (21日)

図5 モニタリングカメラ等設置経緯 (2025年)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
ビデオカメラ稼働日 (色箇所が稼働)	4月																														
	設置																														
	5月																														
	6月																														
	7月																														
	8月																														
	撤去																														

図6 ビデオカメラ稼働日詳細 (2025年)

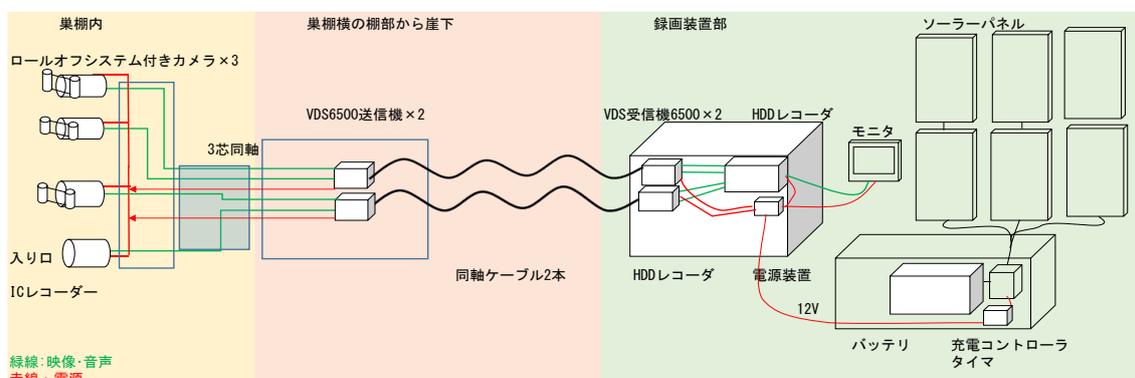


図7 ビデオカメラシステム模式図

② 生態・動態の把握

巣棚内残渣の遺伝子解析について、「資料1-3」で大久保委員より報告。

## (2) 繁殖環境の維持・改善：捕食者対策

2025（令和7）年度は天売島におけるハシブトガラスの個体数が最大24羽と激減し、捕食被害及び捕獲数が減少した。また、ハシブトガラスが巣棚に飛来する回数も減り、過年度のように特定の個体が定着している様子は見られなかった。一方で、抱卵期や巣立ち期には飛来を確認し、卵3個とヒナ1羽の捕食を確認している。

捕食者対策では、エアライフル捕獲（シャープシューティング含む）及び巣落としを実施した。天売島のハシブトガラスの個体数の大幅な減少について明確な要因は定かでないが、断続的にハシブトガラスの飛来が確認され、捕食被害が出ていることから、既存の対策を継続していく必要がある。

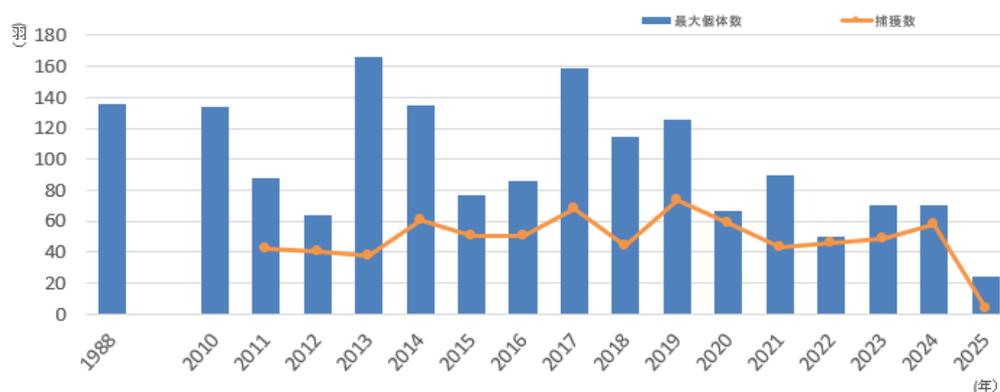


図8 天売島におけるハシブトガラスの最大個体数及び捕獲数の経年変化

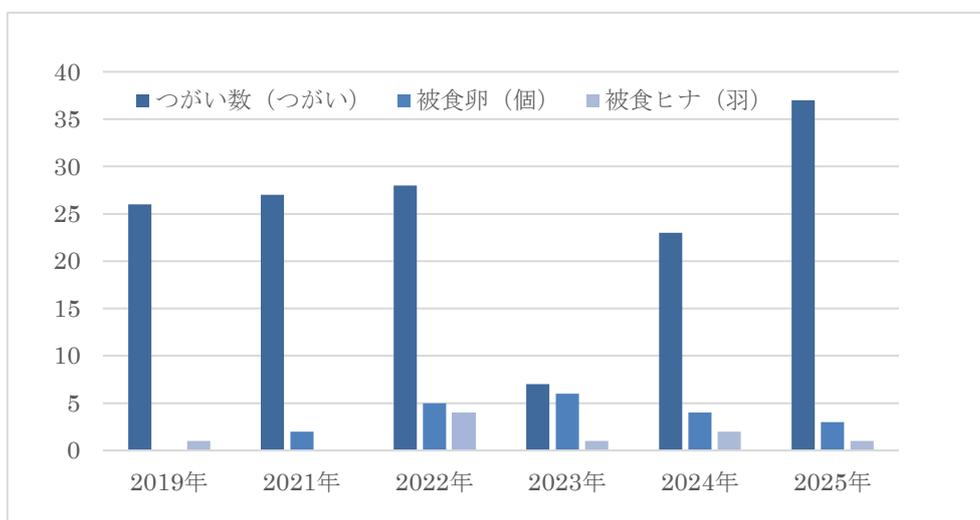


図9 ハシブトガラスによる捕食被害（2019～2025年）

表3 巣落とし対策の実績（2018～2025年）

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
巣（駆除）	10	15	6	9	4	1	3	1
巣（発見）	—	—	8	11	5	6	4	2
卵（個）	0	3	3～4	6	0	0	0	0
ヒナ（羽）	14	9	10	10	8	3	9	3

表4 エアライフル捕獲の実施回数及び捕獲数（2011～2025年）

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
オオセグロカモメ（羽）	100	41	28	17	16	27	24	25	22	22	22	0	0	0	0
ハシブトガラス（羽） （うち海岸で捕獲）	42 (-)	40 (-)	38 (-)	61 (-)	51 (-)	51 (4)	68 (1)	44 (0)	74 (1)	59 (0)	43 (0)	46 (0)	49 (1)	58 (0)	4 (0)
実施回数（回） （うち海岸）	16 (8)	14 (7)	10 (5)	13 (6)	13 (6)	15 (7)	17 (8)	15 (7)	14 (6)	14 (6)	15 (7)	8 (1)	14 (4)	12 (1)	4 (3)

※年度により1回ごとの実施時間が異なる。

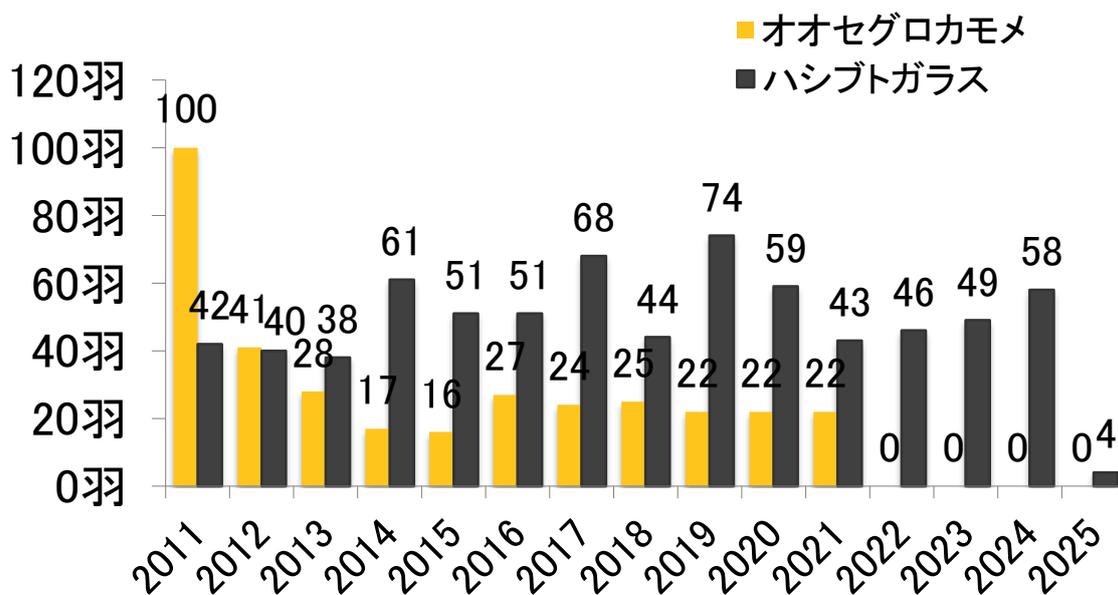


図10 エアライフル捕獲における捕獲数の経年変化（2011～2025年）

## (2) 採餌環境の考察

2025（令和7）年は給餌頻度が0.10/hとなり、2024（令和6）年度や2019（令和元）年度より低い結果となった。また、ウミガラスの採餌魚種について、2018（平成30）年以降（※2020（令和2）年、2021（令和3）年は欠損）の採餌映像を専門家（佐藤信彦氏）に解析いただいたところ、天売島のウミガラス個体群はギンポ類を多く採食していることが分かった。また、他種海鳥の採餌状況では、2022（令和4）年度から2024（令和6）年度にかけて高い割合を示したカタクチイワシが減少した。

近年の天売島の個体群では、繁殖成績の良否に関わらず採餌魚種に大きな違いは見られず、給餌頻度が減少した2023（令和5）年度につがい数が激減していることから、給餌頻度が減少すると繁殖に影響があると考えられる。

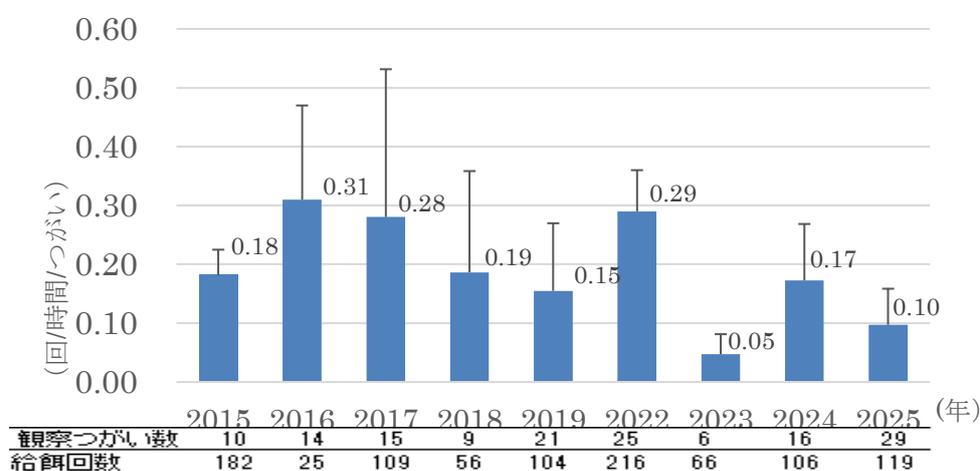


図11 ウミガラスの平均給餌頻度の経年変化（2015～2025年）

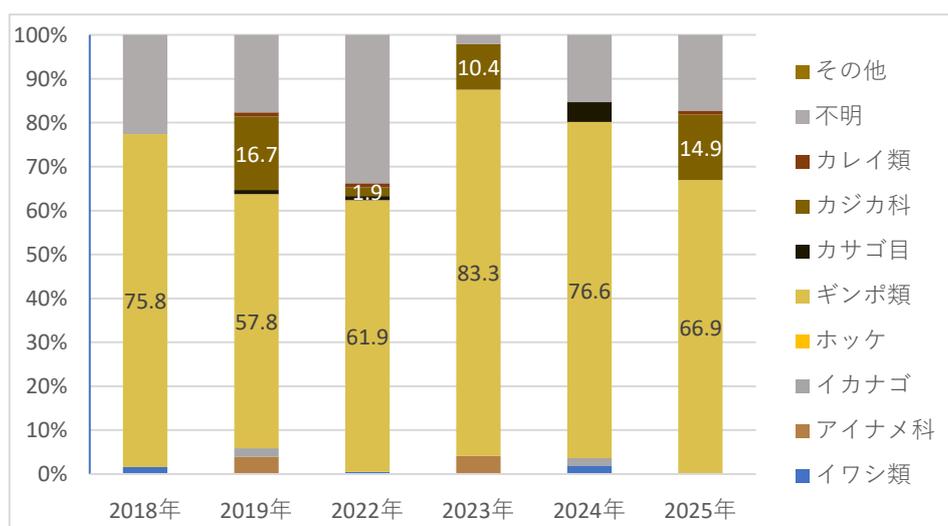


図12 ウミガラスの採餌魚種（2018～2025年）

### ○ウトウ及びウミネコの採餌魚種について

※出典：北海道大学水産科学研究院

2025（令和7）年度は、ウトウ及びウミネコの両種において、2022（令和4）年度から2024（令和6）年度にかけて多く採餌されていたカタクチイワシが減少した。

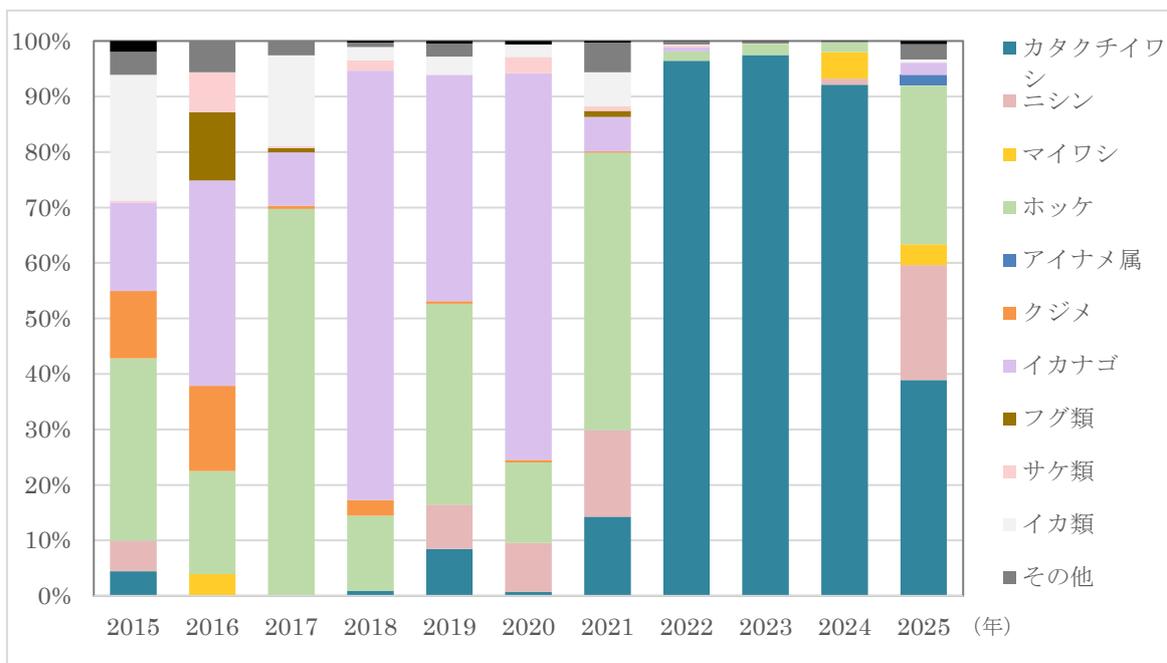


図13 ウトウの採餌魚種割合 (2015~2025年)

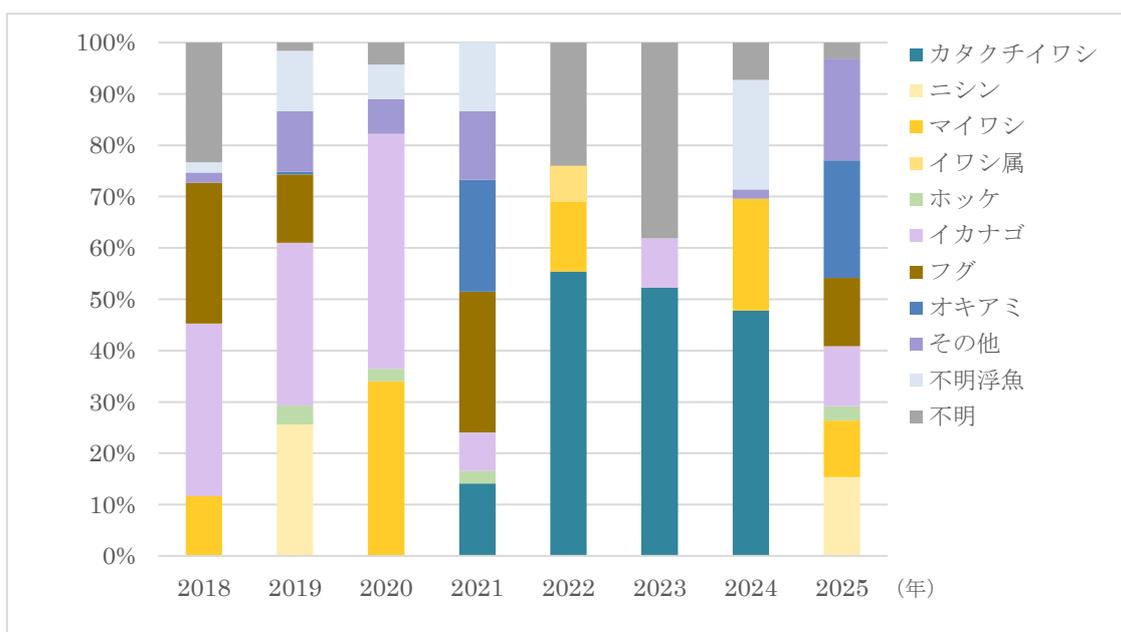


図14 ウミネコの採餌魚種の割合 (2018~2025年)